

地域経済季報

〈令和4年7～9月期〉

総評

今期の前半では、新型コロナウイルス感染症が拡大し、飲食店の利用制限が要請され、緩やかに動き出していた市内経済に大きな影響が出た。とりわけ観光関連業では、感染者増加による施設・店舗の利用者が減少し、厳しい状況が続いた。夏休み、お盆に移動制限がされず、一部では、前年より景況の回復が見られたが、感染症拡大前の水準には至らなかった。9月中旬より県内での飲食制限が解除されるなど、経済活動において回復の兆しが見えてきており、来期の状況に期待。また、前期同様、建設資材・エネルギー価格の高騰や半導体などの部品不足は未だ改善の見込みが立たず、費用の増加、納期の長期化、商品不足等が続いている。特に電気料金の値上げについては、市内すべての事業所に影響を及ぼし、収益を圧迫している状況となった。

来期については、材料仕入の価格高騰が見え通しはなく、建設・製造業のみならず卸売業にも、引き続き厳しい状況が続くと予想される。また、電気料金のように全業種にかかわるエネルギー価格の高騰は事業継続に大きな痛手となる。飲食・宿泊業においては、新型コロナウイルス感染症の拡大状況にもよるが、行業・忘年会シーズンに入るため、観光需要と地元客を中心とした団体需要の回復が鍵となる。依然として、新型コロナウイルス感染症と資材・エネルギー価格の高騰による経済活動の停滞が懸念される。

				調査事業所のコメント
	前期状況 (4～6月期)	今期状況 (7～9月期)	来期見通し (10～12月期)	
建設業	→	→	→	今期は、昨年7月の大雨災害に伴う復旧に係る土木工事をはじめ、官公・民間需要ともに安定した動きをみせた。他方、慢性的な人手不足の問題や、ウクライナ侵襲・記録的な円安水準による建設資材やエネルギー価格高騰など、収益を圧迫する様々な課題が山積している。来期は、様々な分野における不確実性により建設資材等についても高止まりが予想される。官公需要はもとより、市内宿泊施設改修の動きもみられる民間需要に期待する。
製造業	→	→	→	今期は、依然として続く部品不足・納期長期化は、生産に大きな影響を与え、完成品ができず、引き合いがあっても受注ができない状況にある。また、材料やエネルギー価格の上昇が続く。特に電気料金はこれまででない水準に達している。円安・コストアップ、人手不足など課題は多い。来期は、状況改善の兆しは見えない。
卸売業	→	→	→	依然として原材料・部品・船便の稼働などサプライチェーンが機能せず商品が入らない、売る商品が続く。また、原油高・商品不足による値上がりもあり、状況回復の見通しが立たない状況。観光需要は少しずつ回復しているが、昨年は12月までのところが好調だったところもあり、単純比較はできないもののこのまでの需要回復が見込めるかは不透明である。来期については、各問題が向こう四半期で解消するとは考えづらく、厳しい状況が続く見込みである。
小売業	衣料品	→	→	今期は、新型コロナウイルス感染症の感染者数の急拡大や、猛暑等の影響もあり人出が鈍い状況の中、物価の上昇もあり衣料品が回復しとることもあるのか昨年度より若干悪い状況。既に靴等を中心に値上がり傾向で、稀に納期の遅れもある。来期は、人流のさらなる回復と、消費マインドの回復に期待したいが、物価高騰は続くので、今度あまり上がっていない商品についての値上げも懸念され、依然厳しい状況。
	家電	→	→	今期は、昨年と比べて猛暑日が多かったためエアコンの販売台数が増加。加えて、例年と比べ高価格帯の商品が多く売れたため対前比較で増収となった。その理由は、半導体不足等により低価格帯エアコンが品薄となったためである。また、原油物価高騰に対応した行政の補助制度により事業所のエアコン、LED等の交換え需要も追い風となった。来期については、部品不足による納期の懸念はあるが、暖房器具等の売上増加に期待。
	自動車	→	→	昨年から続く半導体をはじめとする部品不足に海外での都市封鎖による部品供給網の混乱が重なり、生産が滞っている。特に人気車種の多目的スポーツ車（SUV）の新車の納期が一層長期化し、受注を停止する車種もある。このことより新車登録台数は前年同期比で減少。来期については、部品不足問題も長期化しており不透明な状況にあるが、足元では新車投入等による受注状況の好転が見える傾向もみえており、年後半に向けた販売回復に期待。
	総合家量販店	→	→	今期は、来店客数は昨年対比でプラスとなるなど感染対策を行ないつつ人は動き始めていることを実感するものの、物価の上昇や円安等の影響で様々な商品が値上げされる中、買い控えが起きており全体売上高としては昨年対比で微減している状況。これまで堅調であった寝具や化粧品等の商品も需要も落ち着きを見せ始めている。来期は、10月以降に再度値上げの情報があることから駆け込み需要も見込みつつ、催事や歳暮シーズンに向けて年末商戦の盛り上がり期待している。
業	スーパー	→	→	今期は引き続き食生活の底支えと緩和された行動制限により来店数や売り上げは堅調に推移。9月に入り感染症第7波は落ち着きを見せており、家庭内食品需要は現状の水準で推移する可能性は高いと考える。来期については、食品需要は一定の水準で推移するものの、物価高騰の影響は依然として大きく、今後も食品関連の値上げ品目が増加することもあり売上額の低迷を懸念する。
	特産品	→	→	今期は、売上・客数ともに前年比100～150%で推移した。今期は移動制限のない夏季ではあったものの、引き続きコロナ以前の元年度と比し70%と回復には至っていない。客単価は若干増えたものの物価高によるものもある。燃料費等の高騰により利益減収がみられる。来期については、新型コロナウイルス感染症の影響も懸念されるが、行業シーズンに入り、神在月もあるため、観光客の来松増を期待。
サービス業	飲食	→	→	今期は3年ぶりに行動制限のない夏を迎え、観光需要の回復の兆しは見えたが、7月にコロナの感染者数が急増し、県から再び会食人数を4人以下とする飲食制限の要請が出たことで団体需要が大幅に減少し、業績が悪化に転じた。団体需要は8月末に規制が緩和され、9月中旬に全面解除されたこと、ようやく動きが見られるようになってきた。来期は、行業シーズンや忘年会時期を迎え、引き続き観光需要と地元客を中心とした団体需要の回復が鍵となるが、従業員の確保と原材料やエネルギーコストの上昇により収益の低下に懸念。
	旅館・ホテル	→	→	今期は夏休みを挟み、移動制限はなかったが、コロナ要請の数字感や移動自粛のムードにより回復しきれていなかった。松江水郷祭初日と盆の期間はほぼ満室。全体としては、対前年比10%の回復であったが、コロナ禍前と比べると10～15%回復しきれていない。来期は松江水郷祭やどう行例などのイベントが再開される。10月1日から全国劇もスタートするため、宿泊客数増に期待。
	運輸・旅客	→	→	今期は夏休み、盆の帰省などでの人の動きが期待されたが、感染者数の急増もあり、予定していたほどの利用はなかった。昨年同期よりはやや回復したものの、特に貸切バス需要が激減しており、コロナ前と比較するとまだ低調。団体旅行のバス値上げはほとんどなく、県内利用のみであることや、自家用車での個人旅行が多いことが要因。来期は行業・忘年会シーズンなどの好材料もあるが、コロナ次第で状況が一転するため先行き不透明。

※売上の前年同期比について → → → により表しています。